

1969年（昭和44年）京都大学院修士課程修了後、建設省に入省

琵琶湖・甲府工事事務所長等、土木研究所でダム部長、環境部長・地質官など歴任

1997年（平成9年）財団法人土木研究所センター風土工学研究所長に就任

2000年（平成12年）の富士常葉大学設立とともに同大学環境教授、同大付属の風土工学研究所所長に就任

2010年（平成22年）同大学名誉教授。2011年（平成23年）風土工学デザイン研究所理事長に就任

2012年（平成24年度、平成25年度）山口大学時間学研究所客員教授

2018年（平成30年）風土工学デザイン研究所会長

「風土工学序説」「風土工学の視座」「ダムのはなし」「環境防災学」「ダムと堤防」「風土千年・復興論」

「物語日本の治水史」その他多数

新しい学問体系「風土工学」及び「環境防災学」の2学を構築し、その普及啓発・全国各地の風土・環境

・防災に関する講演活動に努めています

科学技術庁長官賞・前田工学賞（最優秀博士論文賞）・瑞宝章・日本水大賞（特別賞）その他多数

## 可児川の甦生をめざして

可児川とは木曾川水系可児川が正式名所であります。瑞浪の松野湖を源流とし可児市土田で木曾川と合流します。全長約25km、木曾川の一次支川としては一番短い一級河川と言われています。

可児川の水は御嵩町と可児市の田畑を用水として潤しています。

私の知る限り可児川の役割は、田畑の用水と洪水対策の排水だけに思えます。しかし昔は、可児川は子どもたちの遊び場、親子の触れ合いの場でもあり、川がもっと身近にありました。

貴方は覚えていますが、可児川の本流でホタルが見えた事を。鮎の解禁日多くの人で賑わった事を。友人と一緒に魚釣りをした事を。ヤスを持って魚取りをした事を。先輩と一緒に川で泳いだ事を。捨針やモジでうなぎを獲った事を覚えていませんか。私たちの少年時代は男女問わず、可児川で思い出は多くあると思います。

今の可児川の現状を知っていますか。

ホタルが見受けられない、ホタル橋本流ではほとんどホタルが見られなくなりました。鮎は上之郷の一部を除いては、鮎は育ちません。育たないから鮎の放流もなくなりました。コンクリートの傾斜護岸があり川に近づけなくなり、ゴミも拾えなくなりました。田畑の用水のために鉄板の堰堤があり、下流に水が流れません。魚道のない堰堤、機能を果たさない魚道は魚が遡上できなくなりました。

洪水対策の為に川底のサバが出るまで、平らに掘り下げ水深の浅い川になりました。川の周りの竹林や雑木林は川幅を広げる為に削り取られ、水量の少ない所は水温が上がり魚が棲めなくなりました。山林を切り開き住宅、工業団地、ゴルフ場開発で山の保水力が無くなり、水量が減少し濁水が目立つようになりました。

私たちは何故思いついた可児川を今の子どもたちに残せなかったのでしょうか。時代が変わったからと言って、川に背を向けて生活しても気に留めなかったのでしょうか。環境重視と言われている時代で、自分たちだけ住みよければ魚に気に遣う事は必要ではなかったのでしょうか。我々は可児川問題を提起するだけで解決しないで、次の時代に任せればよいのでしょうか。

行政やボランティア活動で可児川の清掃を行っていますますが、根本的な解決方法を見出さなければ可児川の甦生は望めないと思います。

私たちライオンズクラブも十数年、やろまいかふる里の川作りとして可児川の甦生を目指し活動してきましたが、やはり根本的に活動するには行政の方々や可児川に思い出がある方にお集まりいただき、根本的な解決方法を見つけないといけないと思います。

多くの皆様にお集まりいただき多くのお見聞をお聞きしたいと思います。